

第4回湘南映像祭 2008年9月21日開催！

開催場所 藤沢産業センター 7・8 F
10:00～17:00
入場無料

会場にて1次審査通貨入賞作品を上映後審査し表彰いたします
 ※ボランティアスタッフ募集中

お問合せ

NPO法人湘南市民メディアネットワーク
 湘南映像祭事務局

TEL・FAX 0466-62-2288
 E-mail info@scmn.info
 HP <http://scmn.info>

主催 NPO法人湘南市民メディアネットワーク
協力 東京ビデオフェスティバル事務局
 (財)川喜多映画文化記念財団
後援 神奈川県教育委員会 藤沢市教育委員会
 (社)神奈川県青少年協会 (財)藤沢青少年協会
 (社)藤沢市観光協会

かながわボランティア活動推進基金21ボランティア活動補助金の助成を受けております

scmn

Shonan Citizen Media Network
湘南映像祭新聞
 Shonan Video Festival Newspapers

発行者
 NPO法人
 湘南市民メディアネットワーク
 神奈川県藤沢市藤沢110-4
 TEL/FAX 0466-62-2288
 E-mail info@scmn.info

<http://scmn.info>

協力

江の島ボウリングセンター
 TEL 0466-23-6114
 藤沢市片瀬海岸2-15-22
<http://a-bowl.jp/>

cine
 koya

締切迫る！

第2回鎌倉映像フェスティバル

応募締切 9月5日
募集作品 テーマ 道の映像作品
 10分以内の作品
賞 最優秀賞 賞金20万円
 /他

主催 (財)川喜多映画文化記念財団
詳細 <http://www.kawakita-film.or.jp>

TVF (東京ビデオフェスティバル) 2009

応募締切 9月30日
募集作品 テーマ 題材は自由です
 20分以内の作品
賞 ビデオ大賞 賞金50万円/副賞
 /他

主催 日本ビクター株式会社
 東京ビデオフェスティバル事務局
詳細 <http://www.victor.co.jp/tvf/>

第4回シネコヤワークショップ

プロのカメラマンが秘策伝授！

7月19日シネコヤ+ワークショップ
 第4回が藤沢市青少年会館で開催されました。

講師は元テレビ朝日のカメラマンで、自然ドキュメンタリーカメラマンとして活躍している吉原修先生。映画の撮影助手を務めた経験もあるということで、テレビから映画までさまざまな裏話で盛り上がりました。参加者は小学生から大人まで。パン、移動撮影などのプロの技術アドバイスには皆食い入るように見ていました。

カメラマンに大事なものは日ごろの観察力と話す吉原先生。自然を相手にした難しい撮影も一瞬の美しさを如何にとらえるかが勝負とか。日常で意識することの大切さを参加者も感じたようです。

吉原修
 元テレビ朝日カメラマン

東宝映画 黒澤明監督作品に撮影スタッフとして参加する。テレビ朝日入社後、「ネーチャリングスペシャル」、「シルクロードスペシャル」などの自然ドキュメンタリーのカメラマンとして活躍。

ムービー塾体験レポート

みなさま、こんにちは。コウちゃんです。

DMDD (Digital Movie Director) (存知ですか？)

「一億総クリエーター」を目標に、主語、述語、目的語、セリフなどを1行ずつ入力してゆくことにより、誰もが簡単にアニメ映像を生成できるシステムで、現在大変注目を集めています。このDMDD、ついに新バージョンDMDD2.0が6月9日よりフリーウェア公開が始まっています。みなさまもぜひダウンロードして使ってみてください

(<http://www.movie-school.org>)

開発者の東北大学青木輝勝准教授らによると「中学生、高校生、大学生の映像表現教育からシニア世代の生涯教育まで幅広く利用して頂きたい」とのことです。出張講座「ムービー塾」の開催も随時受け付けているそうです。すでに学校でのムービー塾開催も多数行われておりますので、安心して開催を依頼することが出来ます。ご関心をお持ちの教育機関の先生方などはぜひともムービー塾事務局宛にご一報ください

(E-mail: info@movie-school.org)。
 さて、本日は2008年5月17日(土)、品川区の中小企業センターにて開催された第81回ムービー塾を

レポートしましょう。

今回のムービー塾を主催してくださったのは品川ITサポーターズの皆さんです。パソコンボランティアの方々とシニアパソコン教室の受講生の皆さん総勢25名の方が参加されました。

始めに会長の今井啓二さまよりご挨拶をいただきました。

その後、さっそく講義開始。午前中は東北大学准教授青木輝勝講師によるDMDD2.0の使い方の説明です。

みなさんでお弁当を食べて、午後からは自由制作です。パソコンに詳しくない方でも大丈夫！プルダウンから使用したいキャラクターやセットを選んでセリフの入力をしていけばムービーができてしまいます。



今回の上位入賞者、1位今井啓二さん。もしや実話？と思われる楽しいストーリーで票を集めました。2位に、福田憲司さん。ナレーション機能を上手く活用した作品。話の続きが気になります。

3位、関根みゆきさん。カメラの「追う」という機能とキャラクターのアクションを上手に組み合わせ、地震の効果を出しています。

みなさん、おめでとうございます！終了後のアンケートでは、「60歳を過ぎてパソコンを始めて、自分で動画が作れるようになると思わなかった！」という喜びの声が聞かれました。

一人一人にこだわって 学習のコーチを40年

一ひらめく頭に変える一

自著

『お母さんは勉強
 を教えないで』
 草思社

書店でお取り寄せできます

小中高 個人教授 補習・受験 数英国

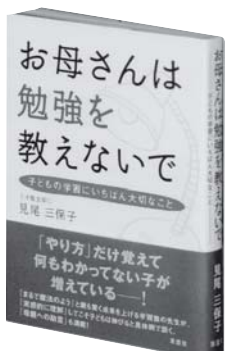
IQ EQ
知 と 心

江ノ電 江ノ島駅 2分

ミオ塾

ミオジユク

☎0466-26-3019



みんなの 夏休み生活の映像祭新聞

青木 輝勝（あおき てるまさ）

夏休みも残り9月に入った。
私の家の目の前には、通称「親不孝通り」と呼ばれている予備校が林立している大通りがある。夏休み中は、毎日暑い中、夏季講習参加者とおぼしき高校生・浪人生の姿が目に入る。「四当五落」はさすがに死語だろうが「夏を制するものが受験を制す」はまだ健在なのだろうか？真剣なまなざしをした若者を毎日見ているとこちらまで大変刺激を受ける。ぜひとも彼らも来年3月には親孝行してもらいたいものである。

ところで受験生の夏というと、私の場合どうしてもオリンピックとリンクしてしまう。私の高校受験時はロサンゼルスオリンピック、大学受験時はソウルオリンピックが開催されたからであろうか。「ん？オリンピックは4年に1回、高校受験と大学受験の間隔は普通3年のはずだが…」と思った方、大変鋭い！実は私自身1年間「親不孝」をしていたがゆえにオリンピックの周期と受験の周期が一致してしまったのである。ちなみにその4年後には大学院受験（これはさほど切羽詰ったものではないが）もあり、3大会連続受験という珍記録(?)を達成している。

そういう今年もまさにオリンピックイヤー。北京オリンピックも熱狂のうちに閉幕を迎えた。例によって悲喜(?)もいろいろあったが、ひたむきに全精力を傾けて取り組む選手の様子は、美しい。感動的である。メダルの色、メダルの有無なんて関係ない。ひたむきさそのものが大切なのだとつくづく意識させられる。このあたりは私が目にする親不孝通りの若者達と似ている気がしないでもない。そういえば大学受験当時の恩師の秋山仁先生(著名な数学者だが当時は某予備校でも教壇に立つておられた)が「正義は滅びる。努力は報われず。そんなの当たり前。努力が必ず報われるなんて思っている奴は甘いよ。実は努力なんてほとんどが報われない」

んだ。でも、それでもがんばる。それが「若者」の定義だ。」とよくおっしゃっていた。今思い出して改めて金言だと思ふ。結果がすべてと思いがちな受験生のみなさま、ぜひとも明日の日本を担う「若者」としてその過程も大切にしがねばつてくたさい。

さて、ちよつと説教が長くなりました。今月の技術講座に入りましょう。

今月は「動画の圧縮技術」です。

前回は静止画の圧縮技術、具体的には静止画中の「空間冗長性の削減」をどのように行うかについて、その基本原理を学びました。

動画は、細かく分解すると1秒間30枚の静止画から構成されていますので、当然この静止画の圧縮技術は動画の圧縮方法としても使えますし、実際使われています。しかしそれと同時に、この毎秒30枚の静止画はそれぞれ関連性があり、その情報をうまく取りよさらに圧縮することも可能です。これを「時間冗長性の削減」と言います。ここで言う「関連性」とは30枚の静止画の内容は似たものであると仮定できる、ということです。例えば、皆さんが旅行先のきれいな風景をビデオカメラに収める場合を考えてみましょう。まずビデオカメラの撮影ボタンをONにします。そうすると、動画を撮影している気分になりますが、実際にビデオカメラの内部では毎秒30枚の静止画(つまり、30分の1秒ごとに1枚ずつの静止画を撮影している)とになります。このとき、30分の1秒目の静止画とその次(30分の2秒目)の静止画を撮影する時間の差はわずかに30分の1秒です。つまり、この2枚の静止画はほとんど同じものが同じ位置に写っている、ということができるといえます。これは別な言い方をすれば、「1枚目の静止画があれば2枚目の静止画の情報はある程度正確に予測できる」ということに他なりません。

もちろん非常に動きが速い物体が画像中に含まれる場合には2枚の静止画は全く同じにならず少し差が生じます。そこで、これらの移動物体をうまく予測すること、すなわち前回までと同じ言い方をすれば、「1枚目の静止画の中のこの画素がこの色ならば、2枚目の静止画のあの画素はこういう色に違いない」とコンピュータが予測できるようにすることが「時間冗長性の削減」技術に他なりません。

図1に具体的な例を示します。

図1

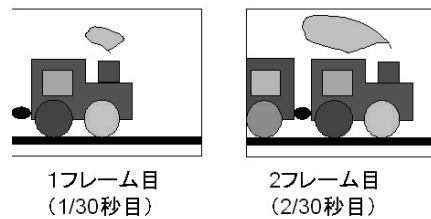


図3

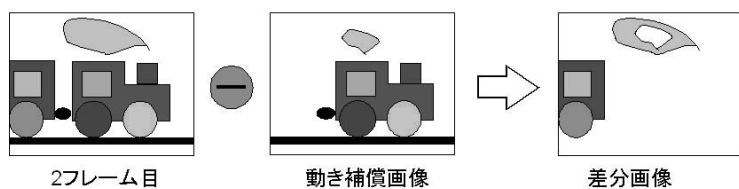
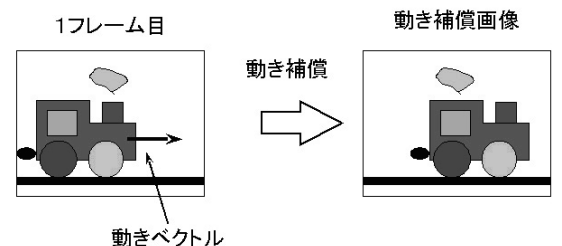


図2



なぜこのような処理を行うかと言えば、2フレーム目の画像は動きベクトルと差分画像があれば1フレーム目から作り出すことができるからです。つまり、通常、通信相手に「1フレーム目と2フレーム目の2枚の静止画を送らなければならぬのに対し、「1フレーム目の静止画と動きベクトル、それと差分画像」を送ればよい、ということになります。

一般に、2フレーム目の静止画と比較して「動きベクトル+差分画像」の情報量ははるかに小さいので、結果的に「これだけ圧縮されていることになります」。

以上が「時間冗長性の削減」を行うための基本原理です。この原理は、現在の地上波デジタル放送やDVDで使われているMPEG-2という国際標準規格をはじめ、ほとんどの動画画像圧縮技術の中心的な考え方として採用されているものですので、ぜひ覚えておいてください。



青木 輝勝
(あおき てるまさ)

東北大学 電気通信研究所／
情報科学研究所 准教授
文部科学大臣表彰若手科学者賞
など受賞多数

情報と映像

これからのメディア情報学(5)

川合 康央(かわい やすお)

情報デザイン分野は、情報を整理し、伝達することである。今回は、情報学部における情報デザインの分野についての具体的な科目について事例を紹介していきたい。

DTP (Desk Top

Publishing) は、Web

デザインの基盤として、重要な役割を有している。本演習では、紙とモニターによる表現に違い、アスペクト比の違いによる夫々の魅せ方や、RGB表現とCMYK表現、ラスタ表現とベクタ表現について、「1:

興味を持たせる」科目であると同時に「2: 背景となる理論と技術を学ぶ」科目でもある。

情報のデザインが行われている雑誌や書籍の表紙を、丁寧にトレースすること、そのデザイナーが制作時に考えていた事を追体験する。何故この箇所は、このような書体であるのか、文字の大きさと画像の配置、色彩構成など、実際のデザインから学ぶことは大きい。トレース対象は、「1: 興味を持つ」といった意味からも、学習者が、自らの判断で優れたデザインであると思ったものを自由に選択させた。課題として、基礎スキルを学んだ後、各自正確に書籍や雑誌などの正確なトレースを行った上で、それらを基に、その改善案を制作する。そこでは、単に文字組みだけでなく、学習者が撮影した写真の加工や構図、全体の色使いなども考へることとする。最終課題として、実際のイベントで用いられるポスターのデザインを考え、「3: 問題の発見と解決」をも含む課題を遂行することとする。これらの教育手法は、WebデザインやWebプログラミングに引き継がれる。そこにおいても、優れたデザインのトレースとともに、実際のWebコンテンツの改善点を見出し、その解決のための提案を、実際にWeb制作を通じて行うこととする。



川合 康央
(かわい やすお)

文教大学情報学部
情報システム学科デジタルコンテンツコース 准教授